

# 「気候変動適応策」の推進について

---

令和8年2月17日  
国土交通省 総合政策局

## 第1章 環境政策を巡る情勢

### 脱炭素の必要性の高まり

- ◆ 2050年カーボンニュートラルに向け、野心的なCO<sub>2</sub>排出削減量目標を設定(2030年:46%、2035年:60%、2040年:73%) ※2013年度比

### 自然共生・生物多様性の機運増大

- ◆ NbS(自然を活用して社会課題の解決に繋げる取組)やネイチャーボジティブ(生物多様性の損失を反転させる取組)の機運の高まり

### 循環経済の重要性の高まり

- ◆ 国際的に再生材利用拡大の動き。環境対策のみならず、経済安全保障や産業競争力の観点から重要性が高まり

### 気候変動の影響の顕在化

- ◆ 気候変動の影響により、水害、雪害、土砂災害等の自然災害が激甚化・頻発化、熱中症の深刻化

<社会課題> ①人口減少 ②国土・土地の荒廃・低未利用化 ③東京一極集中 ④インフラ老朽化 ⑤「交通空白」 ⑥担い手不足

## 第2章 基本的な取組方針

- 国土交通省の任務(※)の達成に向けては、環境に関する国内外の大きな潮流等を踏まえ、あらゆる政策の立案・実行において、環境政策との整合を図り、予算、税制、法令等の様々な手段を用いて政策を展開することで、環境政策が目指すウェルビーイングの向上を図りながら、任務を果たすことが重要。
- こうした観点から、本計画では、国土形成、地方創生、社会資本整備、交通政策等に関する我が国のビジョンを踏まえ、さらには環境に関する国内外の潮流を踏まえ、国土交通省が今後重点的に取り組むべき7つの政策を柱として構成する。

(※) 国土の総合的かつ体系的な利用、開発及び保全、そのための社会資本の統合的な整備、交通政策の推進、観光立国の実現に向けた施策の推進、気象業務の健全な発達並びに海上の安全及び治安の確保

### 【重点的に取り組むべき7つの政策の柱】

1. 徹底した省エネ・クリーンエネルギーへの移行、再エネの供給拡大等の国土交通GXの推進
2. 自然再生や人と自然が共生する社会づくり
3. 再生資源を利用した生産システムの構築
4. 環境資源を基軸とした地域の経済社会づくり
5. 気候変動に適応できる社会の形成
6. 環境価値が評価される市場創出
7. グリーン社会を支える体制・基盤づくり

### 【横断的視点】

- ① 関係省庁、産業界を含めた多様な主体が参加した連携・協働の場の構築
- ② 国土交通省が所管する各分野間の連携による相乗効果の発揮
- ③ 技術動向、国際動向を踏まえた産業競争力強化につながる環境政策の展開
- ④ 民間の脱炭素投資などの促進に必要な予見可能性の確保
- ⑤ 人口減少、担い手不足等の我が国の社会課題との同時解決
- ⑥ 環境課題解決の可能性を広げる新技術・DX技術の社会実装・活用
- ⑦ 本邦企業の海外での活躍を促進する国際貢献、国際展開

## 第3章 重点分野ごとの環境政策の展開

## 別冊 分野別・課題別環境関連施策一覧

※毎年度、本計画の実施状況をフォローアップし、施策を充実

# 【重点5】気候変動に適応できる社会の形成

- **気候変動の影響**については、自然災害(水害、雪害、土砂災害等)の激甚化・頻発化が深刻化しており、緩和の取組を行っても完全には避けられず、その影響に備えるための**適応策も同時に進めていくことが重要**。
- あらゆる関係者の連携を強めながら、**治水計画の見直しや流域治水の加速化・深化等ハード・ソフトが一体となった気候変動適応策や、ヒートアイランドや都市の暑熱対策を進め、気候変動に適応できる社会を形成していく**。

## <主な施策>

### ハード・ソフトが一体となった気候変動適応策

#### ◆治水計画の見直し、流域治水の加速化・深化

○ 2035年度までに**すべての河川整備計画(国管理河川)で気候変動の影響を考慮した計画へ見直す**。

○ **海岸保全基本計画における防護目標の設定等により適応策を推進**。

○ 気候変動による災害外力の増大に対応するため、**河川、ダム、砂防、海岸、下水道関係施設の整備等のあらゆる関係者によるハード・ソフト一体となった対策の一層の充実を図り、流域治水の加速化・深化を図る**。

#### ◆道路啓開の実効性の向上

○ **道路啓開計画を法定化し、実効性のある計画に基づいた道路啓開を実施**。

ハード対策 × ソフト対策

#### ◆健全な水循環の意識醸成に向けた普及啓発、教育

○ 「水の週間」における中央行事「水を考えるつどい」等を通じ、**健全な水循環の意識醸成に向けた普及啓発等を推進**。

<水を考えるつどい>



<「水の日」ポスター>



#### ◆新技術や防災気象情報等を活用した防災・減災対策

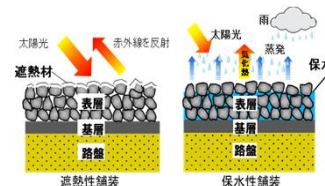
○ **ドローンやAI等の新技術の活用を進め、国民目線に立ったわかりやすい情報発信等を推進**。

○ **防災気象情報等の高度化や、災害発生危険度を示す危険度分布(キキクル)等によって住民の避難行動を促進**。

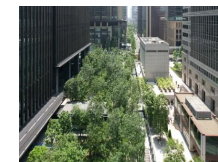
### ヒートアイランド・暑熱対策

#### ◆生活環境の向上に資するヒートアイランド対策

○ **遮熱性舗装等の整備、まちなかの緑化空間の創出等、生活環境の向上に資するヒートアイランド対策を促進**。



環境舗装のイメージ



緑化空間の創出のイメージ

#### ◆熱中症警戒アラートによる熱中症予防行動の促進

○ 環境省と共同で「**熱中症警戒アラート**」を発表し、**暑さへの「気づき」**を呼びかけ。

#### ◆新技術の創出・普及促進

○ ヒートアイランド対策に資する新技術の開発・普及。

<熱を宇宙空間に放出し、居住空間等を冷却できるフィルム>



(例)第6回 エコプロアワード 国土交通大臣賞 「SPACECOOL®」